

シルバー やまがた

第123号 平成28年7月1日発行 (公社)山形市シルバー人材センター広報部会
正会員数 954名 賛助会員 64個人・54団体(6月末現在)



長瀬理事長あいさつ (広報部撮影)

—— 内容紹介 ——

- | | | | |
|----|---|------|--------------------|
| P2 | 平成28年度定時総会あいさつ
表彰状受賞者 | P6 | 役員視察研修会を実施 |
| P3 | 平成27年度 事業実績報告 | P7 | 地域紹介「わが街自慢」 |
| P4 | 平成28年度 課題と事業予算 | P8~9 | 会員のひろば |
| P5 | 新旧役員紹介
平成28年度 年間事業計画 (予定)
安全・適正就業強化月間 | P10 | 就業会員を訪ねて
新入会員紹介 |
| | | P11 | 人あり・技あり・心あり |
| | | P12 | 事務局だより |

ホームページでもご覧いただけます。

山形市シルバー人材センター

検索

平成二十八年度定時総会理事長あいさつ

理事長 長瀬 洋 男

平成二十八年度定時総会の開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

我が国の六十五歳以上の高齢者人口は三千万人を超え、総人口に占める割合も二十五%を超えています。一方、全国的にもシルバー人材センターに入会する会員数は依然として減少又は伸び率が鈍化している状況にあります。

こうした中で、シルバー人材センター事業の役割は、地域社会活性化のための中核事業として、ますます重要になっていきます。

厚生労働省においては、地域の実情に応じ、高齢者のニーズを踏まえた多様な就業機会を確保する観点から、臨時的かつ短期的又は軽易な業務に限定されているシルバー人材センター等の取り扱う業務の要件緩和が検討されており、派遣事業においては、週四十時間までの就業を可能とする法改正が検討されています。

当センターでは平成二十七年から五カ年を期間とする「新中期事業計画」がスタートいたしました。地域の高齢者自らが主体的に連携し、共に働き、共に助け合うことによる活力ある地域づくりに寄与するとともに、市民に信頼され満足されるサービスの提供を通じ、事業の社会性を高め、質的向上と量的拡大を図ることを基本理念として、生涯現役を望む高齢者に就業の場所と、社会参加や仲間との集いの場を提供することに

より、高齢者の生きがいの充実や健康の維持・増進を図っていくことを目指してまいります。会員や賛助会員の皆様のお陰をもちまして、一昨年から取り組んでまいりました新規就業先の開拓活動が奏功し、請負事業では受注実績、就業延人員数の増加が見られるとともに、派遣事業においても、契約金額、就業延人員等、事業実績の好転が見られました。

センターの健全な運営を維持

するためにも、新規就業先の開拓や新入会員の増加を図ることには、喫緊の課題であり、会員の皆様と役員が一体となって取り組んでいかなければなりません。

平成二十八年度においては、イチイチ運動のなお一層の積極的な展開に向けて会員の皆様のご協力をお願いするとともに、安全就業推進委員として提唱しております「三年間事故ゼロ」の取り組みについてもご協力をお願いいたします。

終わりに、シルバー人材センターの基本理念であります「自主・自立・共働・共助」の精神に則り、一層の機能強化と効率的な事業運営を推進するとともに、公益社団法人として高齢者並びに地域社会の期待に応えられるようシルバー事業の推進に取り組みでまいる所存であり、ますので、重ねて関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。あいさつといたします。

感謝状受賞者名簿

1 正副班長及び組長表彰（二名）

地区班 正副班長及び組長として、五年以上在任し、退任される方

地区名	氏名
第二	松田 裕

2 会員表彰（三十四名）

会員として、五年以上在籍し、積極的に就業に励み、その業績が顕著であり、正副班長の推薦を受けた七十歳を超えた方

地区名	氏名	地区名	氏名
第二	石黒 忠克	滝山一	佐藤 文男
第二	東海林正良	滝山一	河合 光義
第四	片桐 幸一	滝山一	菊地 一郎
第五	柿本 青史	滝山一	嶋 真人
第六	金丸 政子	滝山一	高橋 功
西	新野紀美雄	滝山一	今井 秀夫
西	田中 和子	大 郷	伊藤 功
西	神保 秀夫	蔵 王	佐々木 勝
西	鈴木 利勝	蔵 王	松浦 秀勝
第十	折原 昌子	南山形本沢	佐藤 重治
第十	鈴木 莊一	南山形本沢	佐藤 勝蔵
鈴木一	松平 勤	南山形本沢	佐藤 正
鈴木一	神保正一郎	南山形本沢	古頭 義雄
鈴木二	小松 常雄	南山形本沢	赤城 正克
鈴木二	加藤 正晴	南沼原	菅原 智孝
鈴木三	保科 博喜	南沼原	丸谷 茂和
鈴木三	佐藤 喬	南沼原	黒田 義郎

平成27年度 事業実績報告

積極的な新規就業開拓により、契約金額は34,236千円増

我が国の65歳以上の高齢者人口は3,000万人を超え、総人口に占める割合も25%を超えています。団塊の世代はすべて65歳に到達しており、高齢者の就業を確保し、地域社会を担う一員としてのシルバー人材センターの役割はますます重要になっています。

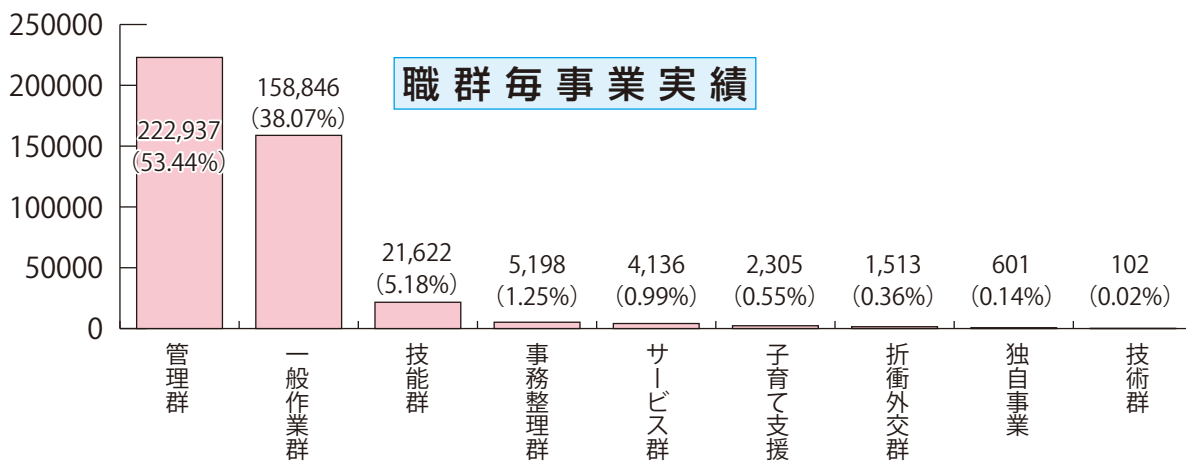
当センターにおいては、平成27年度は平成26年度に策定した「新中期事業計画」5ヵ年の初年度になり、センターの健全な運営を維持するため、喫緊の課題である新規就業先の開拓と新入会員の増加を目指し、会員の皆様・役職員が一丸となり取り組んでまいりました。

平成27年度末の正会員数は、30人増の989となりました。契約金額は、新規就業開拓への積極的な取り組みが奏功し、34,236千円増の

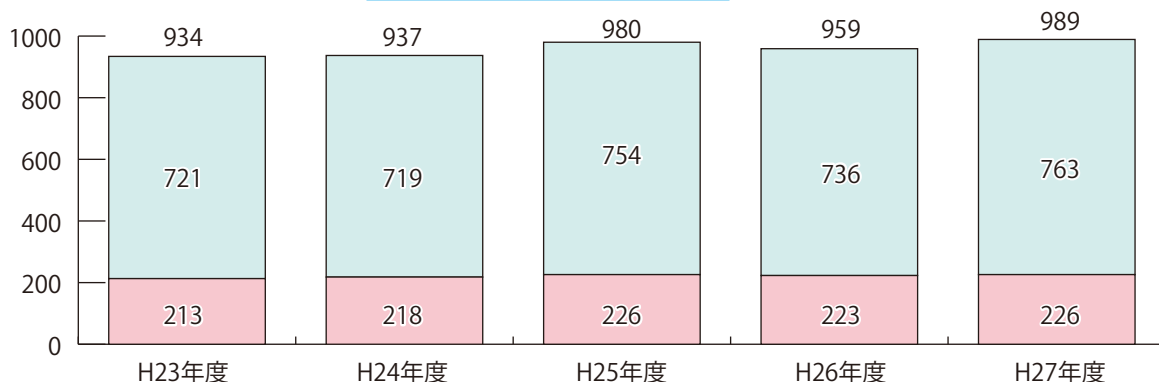
417,260千円、就業延人員は7,822人増の134,438人、受託件数は4,741件と昨年度より軒並み増加しました。また派遣事業についても、契約金額は37,460千円、就業延人数は7,468人、受託件数は215件となり、こちらも前年度より増加しました。(詳しくは平成28年度定時総会議案書をご参照ください。)

平成27年度事業実績

項目	27年度実績	26年度実績	比較
正会員数	989人	959人	30人
契約金額	417,260千円	383,024千円	34,236千円
就業延人数	134,438人	126,616人	7,822人
受託件数	4,741件	4,403件	338件
派遣事業契約金額	37,460千円	26,946千円	10,514千円



年度別会員数の推移



平成28年度 課題と事業予算

会員増と就業機会の拡大、安全就業を重点課題に

シルバー人材センター事業の役割は、地域社会活性化のための中核事業としてますます重要になっております。特に、意欲と能力に応じた就業機会の確保・提供し、社会を支える立場であり続ける高齢者を増やしていくことが急務になっております。

平成28年度は、当センターで策定した「新中期事業計画」の中間年にあたるため、平成27年度事業の検証を行い、同計画の後期の取り組みに向けて修正を行ってまいります。また、新たに『3年間事故ゼロ』の重点目標を掲げ、全会員・役職員が一丸となって安全意識の啓蒙に努めてまいります。

基本理念である「自主・自立、共働・共助」を堅持しながら、一層の機能強化と効率的な事業運営を推進するとともに、関係各位のご支援・ご協力をいただきながら、公益社団法人として、高齢者並びに地域社会の期待に応えられるよう次の8つの事項を重点事項に掲げ、事業の推進に取り組んでまいります。

(事業計画や予算等、詳しくは平成28年度定時総会議案書をご参照ください。)

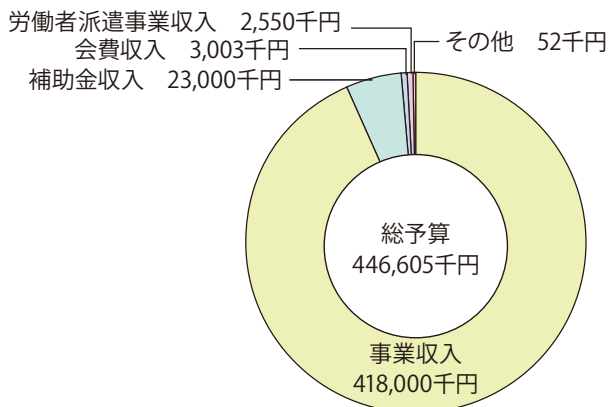
重点課題

1. 会員拡大と退会会員の歯止め
2. 受注作業の迅速化
3. 就業機会の拡大と受注件数の増加
4. 会員組織の充実と活性化
5. 子育て支援事業への取り組み
6. 安全就業推進体制の強化
7. 公益社団法人としての機能強化
8. 経営の効率化と財源の確保

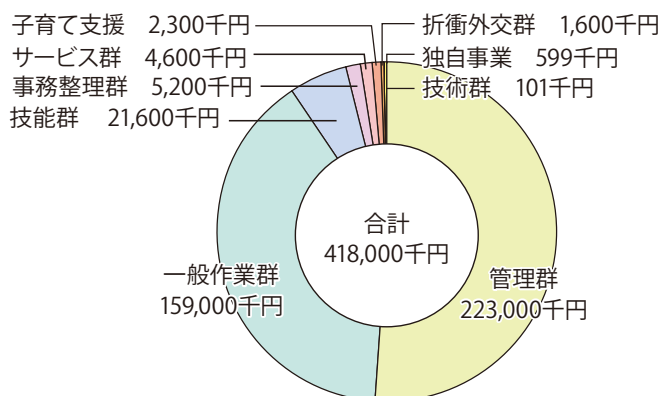


安全就業パトロール

平成28年度予算（収入総額）



事業収入内訳



新旧役員紹介

退任理事

山川 良男
遠藤 修一

新任理事

第六地区

那須 博



鈴川一地区

大滝 守



平成二十八年年度年間事業計画

四月	自転車即売会	自転車即売会
五月	自転車即売会	自転車即売会
六月	平成二十八年年度定時総会	全国普及啓発促進月間
七月	世話役会	清掃奉仕活動
	自転車即売会	自転車即売会
	全国安全就業強化月間	十一月 創作品展示即売会
	安全標語募集	十二月 ブロック研修会
	安全パトロール	世話役会
八月	自転車即売会	二月 新入会員研修会
	安全講習会	三月 世話役会
九月	世話役会	自転車即売会
	新入会員研修会	
	地区研修会	

安全・適正就業強化月間

安全就業推進委員会 委員長 樋口 健一

二十八年年度スローガン

『見逃すな ヒヤリで済んだ あの経験』

前年度、目標を事故「ゼロ」を目指し、事故防止に努めてまいりましたが、残念ながら作業中の石飛びで損害事故一件発生いたしました。全国的にも石飛による損害、怪我が多発しており、今後、各地区班及び職群班とも連携協力し、独自の安全推進活動を実施し、当面の目標として「三年間事故ゼロ」を目指し事故防止活動に取り組んでまいりたいと思います。

- 一、安全就業推進委員会の開催
- 二、事故ゼロを目指した活動の推進
 - ・定期パトロール・不定期パトロールの実施
 - ・安全保護具の完全着用徹底（安全帽・安全帯等の装着）
 - ・機械器具・安全保護具の点検整備
- 三、安全意識の高揚策の充実
- 四、安全標語の募集と優秀作品の表彰
- 五、緊急連絡カードの携帯徹底
- 六、安全に対する体験発表会の開催
- 七、「安全就業推進委員会だより」の発行で事故防止の喚起
- 八、会員の健康管理意識高揚として総合健診の受診を推奨
- 九、就業途上における交通事故防止
- 十、交通安全講習会及び交通安全対策の徹底
- 十一、徒歩・自転車・バイクでの事故防止の徹底

【取り組み事項】

一、安全就業推進委員会の開催

役員視察研修を実施

会員の加入促進と就業機会の拡大にむけて

公益社団法人への移行後、総会や理事会の権限が法制化され、理事会は、業務執行に係る具体的な内容を審議し、執行する機関であり、理事の担う役割は大変重要で、これまで以上にコンプライアンス（法令の遵守）が求められています。

先進地のシルバー人材センターの事業を参考として、当シルバー人材センターの事業運営に役立てていただくため、理事の視察研修を実施しておりますが、三月十四日・十五日の両日にわたり、柏崎市シルバー人材センターと三条市シルバー人材センターを訪問し、役員研修を実施しました。

別表のとおり、柏崎市SCも三条市SCも人口に比して会員数が多く、特に女性会員の比率も高くなっています。この秘密を研修するべく、両市を視察してまいりました。

柏崎市SCと三条市SCの理事長・事務局長さんから、それぞれのシルバー人材センターの事業概要をご教示いただき、積極的な意見交換を行ってまいりました。

柏崎市では、産地直売施設「やまゆり」も見学してまいりました。センターとしては、如何に退会者を少なくするか会員数を維持するカギとなり、そのためには、会員の生きがいや一体化が必要とのことでした。

柏崎市SCでは、産直施設に出席するためには、シルバー会員でなければならず、無償で店番をするボランティアも希望者が百二十名もあつたそうです。会員との交流の場、社会参加の場、生きがい対策としての農場経営や直売所の運営がありました。

三条市は言わずと知れた刃物の街であり、平安神宮遷都の際には三条市の和釘が使われたそうです。シルバー全体としては、一般家庭からの受注が多く、高齢者支援対策として市内のバス事業所とタイアップした買い物支援事業を行っており、好評であった。

今後とも、役員研修の充実を図り、役員の資質向上と適切な事業運営に取り組んでまいります。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

各センターの現況 (平成27年3月31日現在)

	柏崎市SC	三条市SC	山形市SC
人口 (世帯数)	88,588人 (34,617世帯)	101,339人 (31,185世帯)	254,089人 (99,621世帯)
60歳以上 (高齢化率)	33,487人(37.8%)	37,010人(36.5%)	83,919人(33.0%)
理事長名	小林 和徳	金子 武	長瀬 洋男
会員数	1,127人 (男672人、女455人)	961人 (男650人、女311人)	980人 (男754人、女226人)
平均年齢	69.9歳 (男70.8歳、女68.5歳)	71.0歳 (男71.5歳、女69.9歳)	69.9歳 (男70.0歳、女69.8歳)
就業延人数	110,216人	109,840人	126,849人
受注件数	5,936件	6,976件	3,111件
契約金額	470,722千円	468,243千円	394,994千円
配分金	375,182千円	403,955千円	352,431千円
材料費	34,339千円	18,990千円	6,695千円
事務費	61,201千円	45,298千円	35,868千円
独自事業	みんなの農場 直売所やまゆり 自転車再生	刃物とぎ	自転車再生 創作品即売会



産直施設やまゆり (柏崎市SC)



施設内展示状況

第十地区

上谷 一郎

第十地区は、昭和三十五年に奥羽線西側の都市計画が進められたことで、急激に発展した街です。でん六工場や竹田女子高校（現山本学園高校）、第十小学校、YTSテレビ等と次々と建築されました。少し間を空けて山形二中が移転。その跡地には霞城公民館と山形市総合福祉センターが建設されました。霞城公民館は、地区のコミュニケーションの場として利用されています。福祉センターは、体育館や温泉などの設備があり、高齢者のサークル活動が盛んに行われ、健康づくりにおいに役立っています。

朝、バイパスから城南陸橋までの渋滞はひどいものでした。最近、車道は片側二車線、自転車道のある幅の広い歩道。しかも融雪になっている道路が完成。これで朝の渋滞も解消されました。

我が街も高齢化が進んでいます。足の便の悪い高齢者が、病院などに出かける時に利用できる便利なコミュニティバス西部循環線が走るようになりました。バスは、霞城セントラル前に止まります。エレベーターで二十四階に昇り、そこから見える山形市のすばらしい眺望を是非楽しんでください。



霞城セントラル24階 「ひろぜん」から見た十地区

地域紹介

わが街自慢

パートII



滝山二地区

沼沢 久雄

わが街滝山二地区は、山形市の東南に位置し、国道十三号線の西側で、松山・南原町・前田町・松見町・青田・青田南・旭ヶ丘・鳥居ヶ丘・元木・白山と広範囲です。地区には滝山小・南小・桜田小・六中・十中・日大山形高校の五校があります。景観としては、学校の校歌にも歌われている千歳山があり、四季を通じて多くの人が登っています。

四十一年位前までは松の千歳山でしたが、近年は松くい虫の被害で多くの松が伐採されてしまい残念でなりません。

頂上には阿古耶松跡の石碑があり、千三百年（延慶三年）ころに「夫木和歌抄」の歌枕と

して、「陸奥の阿古耶の松に木隠れて出づべき月の出やらぬかな」が知られています。この松はみちのく三松の一つと言われたそうです。

山の北東麓には阿古耶姫を偲ぶ万松寺があり、西麓には岩五郎稲荷の千歳稲荷神社があり、この山は当地区のシンボルとなっています。

四十一年位前までは松の千歳山でしたが、近年は松くい虫の被害で多くの松が伐採されてしまい残念でなりません。

頂上には阿古耶松跡の石碑があり、千三百年（延慶三年）ころに「夫木和歌抄」の歌枕と



千歳山全景

私の元気の原動力



第六地区
鈴木 驍

突然原稿の依頼が有った。この時期は私にとって年間で最も忙しい時なのでお断りを考えたが、日頃お世話になっているシルバーの機関紙なのでお受けする事にしました。

私にとってこの時期は町内会と第六地区の総会を控えて忙しい時なのです。それにもう一つ、趣味の山菜取りが真最中なのです。

私は小学生の頃、父に山仕事の手伝いをさせられ、山行きが嫌になっ

ていたのに、いつの間にか登山を趣味とするようになり百名山は半分程登る様になっていました。しかし登山はするが、山菜採りは無縁だった私がある時職場の先輩に山菜採りに無理やり誘われ付いて行くうちに、

これにもすっかりはまってしまい、もう十年も夢中になって居るのですが、今が私にとって何もかも最も忙しい時なのです。

また秋は茸採りでこれまた忙しくなります。採った食材は塩漬保存し、季節外に食べるのがとても楽しみです。

そうそう千歳山も年三百回程は登ります。お陰で健康で今の仕事が出るのかも知れません。とにかく高齢者になると運動不足になりがちですが、趣味を生かし運動不足を解消し、元気に仕事出来る様、皆さんも励んでみませんか。

津波の爪痕を見て



第七地区
村上 宏治

連休を利用して故郷気仙沼に行く。往復四百キロ以上の長距離だ。孫達も含めて七名。渋滞を覚悟したが、

これがスイスイと。パーキングで食料を買い車中は大騒ぎ。年寄りはいつもこういう時は「残り物」で充分である。気仙沼に入る途中海岸線沿いにあった民家、駅がなくなっている。思わず唾然とする。大型店のスーパーで食事をするが、これが又待たされウンザリ。空腹が満たされたことで皆満足！

さあ墓のある大島へ！途中ダンプカーが往来。防潮堤がまだ六割程度。その附近の土地はようやくがれきも撤去されその跡地には、名の通った工場が二、三棟点々と。震災になる前には石油タンクが何十基と林立していたのが、一基も無し。

TVで放送する「復興への手ごたえ」等は、全般的に見てまだ程遠いものと強く感じられた。

私の趣味から



第八地区
渡邊 剛

毎日が日曜日の生活になり早十四年、早いもので来年はもう後期高齢者の仲間入りです。

私の趣味もいろいろ有りましたが、今も継続しているのが仲間との旅行や岩魚釣り・山菜取り・キノコ取り等があります。

若い時のように岩から岩へ飛び跳ね、藪やえん提をまき源流まで釣り上ることは出来なくなりましたが、距離の短い溪流を選び老骨にムチを打ちながら、年に四・五回（二十センチ未満は放流して来ます）行っております。

溪流添いには、春は山うど・シド



多員の

健康・趣味

家庭菜園



鈴川一地区
渡辺 重子

春からの野菜作り、始まります。

私の野菜作り、近所の友達からの誘いでした。それでも断りました。いざ作り始めると大変でした。初めて作ったのは「トマト」でした。これがまた取り立て最高です。作り始めて三年目になりました。畑の土

ケ・笹竹・こごみ・葉わさび・うるい等があります。夏秋はミズ・キノコ（モダシ・ナメコ・マイタケ）等があり岩魚と共に持ち帰ります。

岩魚は山で腹を裂き内臓を取り、ナイロン袋に入れ全体に塩を振り水を少し入れて持ち帰ります。（家では塩は振らず洗ってから焼きます）

これらの収穫物は最後の処理までやるのが私のモットーです（料理まで）。昨年一時体調を崩し、一時この趣味も諦めかけましたが何とか病気に勝つことができました。今後散歩ラジオ体操やポスティング等で足を鍛え、趣味の継続をしたいと思います。

かな、家族で食べる為に来年もやります。鬼が笑うかもね。小さな家庭菜園楽しく野菜作ります。

明日は苗の植え付けをします。味と見た目おいしくね。

寄稿

五年目の「気仙沼さんま祭り」



第八地区
武田 満

あの東日本大震災から、今年で五年目を迎えます。わが故郷・宮城県気仙沼市でも、あちこちで復興工事が進み、災害公営住宅が建設されて街の姿も変わりつつあります。

しかし、いまだに市内の小中学校のグラウンドには応急仮設住宅がびっしりと建ち並び、四千八百人余の被災者が暮らしています。死者行方不明者約一万八千人を救えた未曾有の東日本大震災。あれから五年も経つのに全国では約五万八千人が狭い仮設住宅暮らしを強いられているのが厳しい現状です。

私は「やまがた気仙沼会」という

組織で活動しています。二〇一一年一月に山形県在住の気仙沼市出身者を中心に結成しました。その二カ月後に大震災が発生。何とか故郷の復興支援に役立ちたいとの思いから始めたのが「気仙沼さんま祭りin山形」のイベントです。

五回目となる今秋は九月二十二日（木、秋分の日）に霞城公園で開催します。大震災を風化させない、との願いを込めて二〇一一匹（二〇一一年発生）の炭火焼きサンマを無料提供します。三陸の水産加工品の販売や地元山形のうまいもの出店、語り部の体験発表、震災と復興写真展など会場では様々な催しがあります。また、新たに親子サンマ焼き教室も企画しています。

秋の一日、三陸の海の幸を味わってください。ご来場をお待ちしております。





角川博道 (生協共立社共同購入物流センター)

就業場所の名称を「生協」と表記しましたが、正式には「生活協同組合共立社山形本部(以下「生協」)」という。共同購入物流センター」といい、上柳にあります。同センターは生協組合員へ、主として冷蔵品と青果物の供給を行う拠点施設です。

ここで本年三月から、派遣事業として七名の会員が就業しています。五月十六日、リーダーの角川さんを訪ねました。はじめに、菅原前センター長から就業の内容について説明をいただきました。概要は次のとおりです。

①会員の仕事は、入荷した青果物の品質チェックです。傷のあるものなど供給の適・不適のチェックですが、判断の難しいものは職

員の指示で行います。②就業は、日曜日から木曜日まで週五日のシフト制で、月平均十五日前後です。③時間は午前九時から午後一時まで、十時三十分から十五分の休憩があります。④会員の都合による就業日の変更は、会員間の調整で行います。

会員の就業場所に案内をいただきました。室温は品質保持のため一定に保たれ、ひんやりとしました。会員の皆さんはジャンパーなどを着用して作業台の前に立ち、袋詰めされた大根やきゅうりなどのチェックを手際よく進めておりました。

短い時間でしたが、休憩時間にリーダーの角川さんのほか、当日の就業会員から話を聞きました。

①作業は、自分の判断で行わない
②立ち仕事だが十五分の休憩時間があるので、大変だあとということはない
③昼食は作業終了後になるが、支障ないということです。
菅原前センター長は、「皆さん、元気に仕事をしていただいております。」と話してくれました。ご多忙の中を対応いただき、ありがとうございました。

(取材・広報部)

就業会員を訪ねて

武田 満 (山形酸素株式会社立谷川事業所)

立谷川工業団地入口に在る「山形酸素株式会社立谷川事業所」を訪問し、武田満会員にお話を伺いました。作業内容は事業所管理業務で三人が就業している。一年を通じて毎日午後五時から翌朝八時までの宿直業務である。一日出勤、二日休日のローテーションで、約月十日の就業となる。

午後五時に出社し宿直室で待機、午後八時頃社員が退社後から事業所に来る電話・来訪者の対応が開始する。①お客様から急ぎの注文・修理の依頼が来た時、②公的機関・お客様から緊急電話が来た時、③その他事業所内外で異常が発生した場合、各当番社員に電話連絡する。事業所の全社員が退社後構内の南・西門を閉じ、事務所玄関の施錠をする。事務所内の巡回・施錠し警備会社の警報装置をセットする。事務所内のゴミや吸い殻を収集し各々指定の場所に置く。巡回は三回程度行う。翌朝五時、警報装置の解除・開錠・開門を行う。七時頃社員が出社したら電話・来訪者対応を終了する。電話・来訪等で受けた注



宿直日誌の記入

文・連絡事項をメモで社員に連絡し、宿直日誌に必要な事項を記入し所定の場所に置き、八時に作業終了。武田さんは、お客様との電話対応なのでぞんざいにならない様注意している。夜間作業で一人勤務なので特に体調管理に気を付けているそうです。

山形酸素(株)は昭和三十一年に設立、今年九月で六十周年。

酸素・窒素・炭酸・LP・その他多種の高圧ガスを製造し、一般家庭から産業用、医療用等広範囲に事業展開していると阿部副所長に伺いました。

取材にご協力有難う御座いました。

(取材・広報部)

シルバーに

人あり 技あり 心あり

純血犬育てて四十年



飯塚・樫沢地区
高橋 勝也

大好きの高橋さんは、趣味でドッグショーに出陳させるために、犬種の特徴（骨格・体形・性格・被色）を標準に近づけるため、犬と苦楽をともにする生活が続いてきました。最初の手掛けたボクサー犬を車に乗せ、ドッグショーの会場に着く。しかし、犬が車酔いしてしまうという大失敗から始まり、調教、愛情、繁殖と情熱をかたむけた四十年間。耳が垂れたボクサー犬は、生まれて間もなく手術して立っています。性格は、同胎仲間と集団の中で健康的に



育てることでも良くなります。体を大きくするのは、鶏の頭から胃袋まで繋がっているものを調理して食べさせる。等々。奥さんからは、「手間のかかる趣味なのよ」と一言あり。ブルドッグ犬を調教しているとき

の事件です。一歳半の外孫が遊びに来ているとき、ブルドッグがあくびをした口に入れた孫。周りでは驚き息を飲む。犬は、手を噛むことなく口を開けたまま。高橋さんは、孫になんかあつたらと心配しながらも、犬をおおいに褒めます。

犬が自分と心を通わずには、褒めてやらなければなりません。褒めれば必ず犬は、なついて信頼します。高橋さんはきっぱり言う。

「今、年齢的なこともあり犬は飼っていません。その生活にも徐々に慣れてきました」と寂しそうに話します。目標を尋ねると、「犬の躰や行動で困っている方と一緒に頑張って手伝いしたいですね」と話す。愛犬の飼育の情報を共有したい方は、是非連絡をとってください。

(取材・広報部)

新入会員紹介

(4月1日～6月30日まで)

飯塚・樫沢地区	千歳地区	鈴川3地区	鈴川2地区	鈴川1地区	第10地区	第8地区	西地区	第6地区	第5地区	第4地区	第3地区	第2地区	第1地区															
結城基男	仁藤政司	鈴木雅子	西倉賢裕	木村敏明	長岡豊宗	設楽芳男	杉山惣一郎	大場吉博	進藤和子	推薦洋子	齋藤正志	西塚悦子	森谷政美	三澤恵一	長嶋政照	阿部和子	佐藤庄平	吉田みち子	安部正次	米倉仲雄	清水賀代子	小笠原好子	札野博義	大築忠雄	村山テル子	仲島勝利	長岡幸治	宮腰登志也
			南沼原地区			南山形・本沢地区	蔵王地区		榎山地区	金井地区	出羽・明治地区	滝山2地区	滝山1地区															
成原義昭	高橋義昭	辻村健治	山川義雄	齋藤勢津子	古頭徳四郎	渡辺健悦	高木豊	小野幸雄	川村和美	田中邦子	武田紀子	枝松勉	菅野進	中野眞市	本間文子	太田寛	渡邊忠則	三井政子	鈴木良一	東海林賢一郎	富岡克美	逸見晴夫	佐藤努	安食共子	柴田喜志子	大山和夫	中村繁	川合則夫

事務局だより

(株)山形市シルバー人材センター

山形市双葉町一丁目二番三号
電話(0)23(6)471647

URL: <http://web.sjc.ne.jp/yamagata>
E-mail: yamagatashi@sjc.ne.jp

新事務局職員紹介

ごじやまがたごへお願ひします。



嘱託職員

三澤 枝里

年度会費は 傷害保険料に充当

会員の皆さんからいただいている年度会費(会員互助会除く)の主な使用内容については左記のとおりです。

会員傷害保険料(一人あたり)

二千百九十円

総会議案書・会報印刷費等

九百円

(うち、三百十円を充当)



お知らせと お願い



配分金支払日

七月二十日(水)

八月十九日(金)

九月二十日(火)

入会説明会(午後一時三十分)

会員の皆さんからも入会の勧誘を
お願いいたします。

七月十四日(木) 二十一日(木)

二十八日(木)

八月四日(木) 十八日(木)

二十五日(木)

九月一日(木) 八日(木)

十五日(木)

就業相談日(午後一時三十分)

(就業に関しての相談です)

七月十四日(木)

八月十八日(木)

九月八日(木)

事務局紹介

常務理事兼事務局長

笹原 信之

業務課長

平田 悦一

業務係

係長

武田 千春

主事

原田 弘之

嘱託職員

吉田 和志

嘱託職員

本多 成美

総務係

係長(兼務)

武田 千春

主任

斎藤 康子

嘱託職員

三澤 枝里

めんこいひろば

子育て支援コーディネーター

斎藤 弘子

小笠原詩織

垂澤ひとみ

渡邊 裕子

センター緊急連絡先

〇九〇一六二五五―五三〇二

土日・祝日に事故等が発生した場合の緊急連絡先です。

また、会員証と一緒にお渡しする

緊急連絡カードは、就業の際必ず携

帯するようお願いいたします。

あとがき

平成二十八年年度定時総会も終了し、新年度がスタートしました。山形市の高齢者は四人に一人を超え、三人に一人に迫ろうとしています。山形シルバー人材センターの会員平均年齢は七十歳を超え、高齢化が進んでおります。定年が延び、希望すれば六十五歳まで現役で勤めることが可能で、当センターの入会年齢の高齢化の要因のひとつと思われます。六十五歳まで働いたんだから、年金が貰えんだから、という方たちに私たち会員は、一人ひとりに声をかけ、いい仕事がある、いい出会いがあることを紹介し、入会を促すことが必要と思いません。

熊本・大分で予想も予期もしなかった大地震がありました。山形も例外ではありません。自分と家族の安全を確認することが第一です。その後近隣の支援を必要とされる方の安全の確認、安全な場所へ避難誘導、万一の場合は助けを求める。絆と善意による行動です。

これは当センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」の精神に通じます。何れにしても健康に留意し、元気で楽しく頑張りましょう。